

# 第1学年1組 道徳科学習指導案

令和6年2月14日（水）第5校時

児童数

授業者

1 **主題名** みんなが楽しいかくれんぼ [内容項目 C- (10) 規則の尊重]

2 **ねらい** 身勝手さから安易に遊びのきまりを破り、仲間に心配をかけてしまう主人公の経験を通して、きまりやルールを守ることがお互いに楽しい生活をつくっていくすばらしさを感じさせ、集団生活の中でのきまりやルールを守る態度を育てる。

**教材名** 「かくれんぼ」(出典:彩の国のどうとく「きょうもげんきに」(小学校低学年) 埼玉県教育委員会)

## 3 主題設定の理由

### (1) ねらいや指導内容について

本主題は、内容項目 C- (10) 「約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。」であり、児童が生活する上で必要な約束や法、きまりの意義を理解し、それらを守るとともに、自他の権利を大切にし、義務を果たすことに関する内容項目である。これは、低学年において、身近な約束やきまりを取り上げ、それらはみんなが気持ちよく安心して過ごすためにあることを理解し、しっかりと守ろうとする意欲や態度を育てることができる題材である。また、中学年の C- (11) 「約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。」や高学年の C- (12) 「法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。」へと発展していく内容である。

### (2) 児童の実態について

本学級の児童は、4月からチャイムが鳴ったら席に着く、授業中は話を聞く、手を挙げて指名されてから発言するなど日々多くの学校生活のルールを学び、実践してきた。その中で、多くの児童が一人一人きまりを守り行動することができるようになってきている。また、休み時間も遊びのルールや約束を守り友達と遊んでいる。互いに声をかけ、きまりを守り、集団として守っていこうとする様子が見られる。

1月に「休み時間、外で遊んでいて困ったことはありますか。」というアンケートを実施したところ児童全員が「ない」と答えた。このことから、日々きまりや約束を守れずに指導する、という実態がある。しかし、本資料の「くまさん」のように、「葛藤しながらもきまりを破ってしまう」ということを意識して考えたことがないという面も浮かび上がってきた。なぜ、きまりを守ることが大切なのか、そのことを実感したり考えたりする機会は少ないと感じた。

道徳の授業においては、多くの児童が自分の考えを持ち発表している。しかし、自分の考えを発することが苦手な児童も4名ほどいる。また、考えを発信する場では、自分の立場が明確でなかったり、考えを言葉にするのに時間がかかったりする児童もいる。資料に出てくる登場人物の気持ちを、自分に振り返って書くことができない児童もいる。

以下は本校の研究にかかわる学習アンケートの結果である。(12月。実施人数22人。1名欠席。)

No	質問項目	1できる	2どちらかといえ ばできる	3どちらかといえ ばにがて	4にがて
1	じゅぎょうでじぶんのかんがえをノートに <u>かく</u> ことができる。	17	4	0	2
2	じゅぎょうでじぶんのかんがえをともだち <u>にはなす</u> ことができる。	12	8	0	3
3	じゅぎょうでじぶんのかんがえを手をあげて <u>はっぴょう</u> することができる。	12	4	4	3
4	ともだちのかんがえを <u>きく</u> ことができる。	18	2	1	2
<p>・1できる ・2どちらかといえ ばできる とこたえたひとにききます。 ともだちのかんがえをきくときに、どのよう にきいていますか。 あてはまるものに、○をつけてください。 (※○は0～2こ) ア、しずかにきく。……………(19) イ、はなしてのほうをみてきく。……………(18)</p>					
5	こくごはすきですか。	12	7	2	2
6	さんすうはすきですか。	12	3	3	5
7	こくごやさんすうのじゅぎょうで、できるよ うになりたいことはありますか。 つぎのなかからあてはまるもの2つに、かな らず○をつけてください。 ア、じぶんのかんがえを ノートに <u>かく</u> こ と。……………(17) イ、じぶんのかんがえを ともだち <u>にはな す</u> こと。……………(8) ウ、じぶんのかんがえを 手をあげて <u>は っぴょう</u> すること。……………(13) エ、じぶんのかんがえを <u>きく</u> こと。……………(8)				

### (3) 教材の特質や活用方法について

本資料は、主人公のくまさんが仲間の動物たちとかくれんぼをする中で約束を破ってしまい、仲間の動物たちが心配する様子を通して、約束を守る大切さを学ぶことができる資料である。くまさんは体が大きく、かくれんぼではすぐに見つかってしまう。仲間の動物たちといつも遊んでいく中で、以前りすさんが川に流されそうになってから、「小川を越えない」というルールが仲間の動物たちの約束になっている。ある日、かくれんぼをする中で、よい隠れ場所が見つからないくまさんは、小川のすぐ向こうに、隠れられそうな太い木があるのを見つける。小川のすぐ近くだったので約束を破ってしまっても問題ないという気持ちと、今度は見つかりたくないという気持ちが勝ち、くまさんは小川を越えてしまう。かくれんぼでは見つからなかったものの、くまさんを探し始める仲間たちの声を聞き、約束を破った重大さに気付く。きまりを守ることの大切さや周りの人々の思いを考えることのできる教材である。

そこで、話し合いにおいて、主に次のように教材を活用する。

- ① かくれんぼでは、体が大きくいつも見つかってしまうくまさんの気持ちに共感させる。仲間の動物たちのかくれんぼでも約束があることと、「今度こそは見つかりたくない。」というくまさんの強い気持ちを押し返す。
- ② なかなかよい隠れ場所が見つからない中、「もういいかい。」の声が聞こえて焦るくまさんの気持ちを押し返す。小川を越えたすぐ先に木がある場面を提示し、お面をつけて、くまさんになりきって相反する2つの気持ちを考える。葛藤しつつも小川を越えるくまさんの気持ちを自分と重ねて考える。
- ③ 動物たちが心配する場面から、自分の行動が思いがけない結果につながってしまったことに気付かせ、ルールやきまりを守るすばらしさにつなげていき、自分のこととして振り返る。

以上の理由から、本主題を設定した。

#### 4 研究主題との関わり

本校の研究主題は、「互いに認め合う学級風土を土台とした対話する力の育成」である。児童が生きるこれからの社会では、答えのない問いに対して、多様な立場のものが議論し、納得感を生み出していくことが求められる。その過程で、他者との対話（コミュニケーション）は必要不可欠であり、他者と好ましく対話する力は、人生を豊かなものにするための基盤になると考える。

そこで本校では、話すこと・聞くことを中心とした「対話する力」に重点を置いた学級風土づくりと授業改善を行うことで、児童が主体的に自分の考えを表現し、対話を通して考えを深めたり高めたりしていけるよう、研究に取り組んでいく。

互いに認め合う学級風土を土台とした対話する力の育成  
～学級経営と話す・聞く活動の充実を通して～

##### 【本教材で目指す児童像】

集団生活の中できまりやルールがあるのは何のためかを、対話を通して気づき、自らきまりやルールを守ろうとする児童



##### 【仮説 2】

発達段階に応じて、話す・聞く活動を工夫すれば、考えを高めたり深めたりするための対話する力が身に付くであろう。



##### 【仮説 2 における本単元の手立て】

- ④ 児童が自分の考えを持ったり、深めたりできるように、具体物や場面絵などを工夫する。
- ⑤ 児童が本時のねらいに即した話合いが行われるように、発問を工夫する。
- ⑥ 多面的、多角的な視点が持てるように、教師と児童のキャッチボール型のやりとりを行う。



##### 【仮説 1】

児童一人一人を大切にしたい学級経営を工夫すれば、互いに認め合い、自分の考えを主体的に表現しあえるであろう。



##### 【仮説 1 における本単元の手立て】

- ① 『聞く木』を活用し、相手が話しやすくなる聞き方についても指導する。
- ② 日常的にペアやグループ活動、話し合いを取り入れたり、多様な発信方法を提示したりすることで児童が自分の考えを発信する機会を保障する。
- ③ 児童の発言に対して、教師が肯定的に受け答えたり言い換えをしたりして、発言者が安心して発言できる環境をつくる。

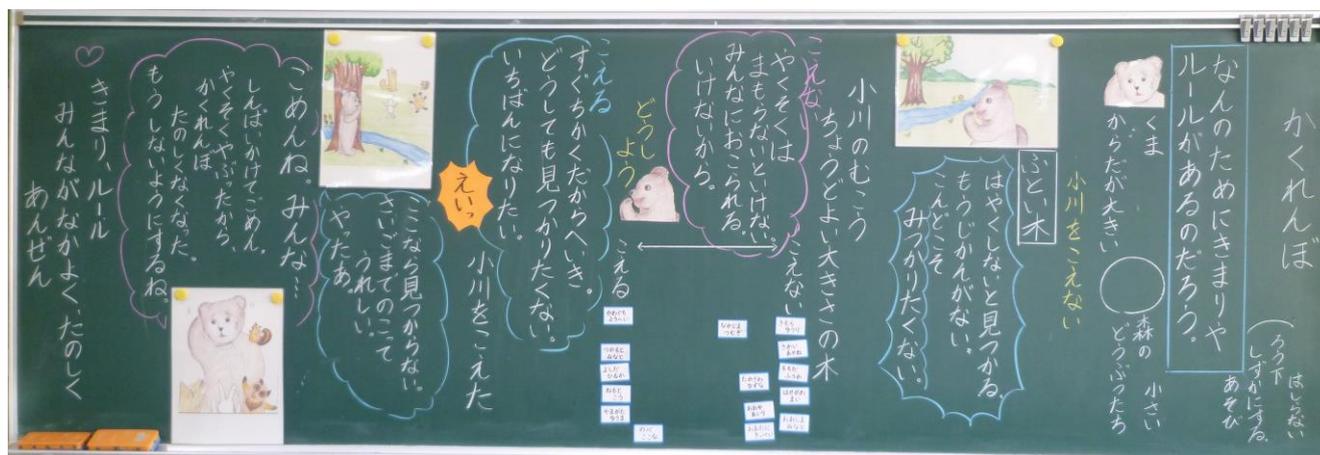
## 5 本時の展開

段階		学習活動・主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点(配慮・手立て) ⑩評価 ★話す・聞く活動の工夫
導入	気づく	1 きまりや約束について話し合う。 ・学校にはどんなきまりやルールがありますか。	・廊下を走らない。 ・静かにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きまりや約束をいくつか想起する。</li> <li>・事前のアンケート結果に触れ、本資料の状況理解へとつなげる。</li> <li>・課題を提示し、終末の振り返りへとつなげる。</li> </ul>
		2 本時の課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     なんのために きまりやルールがあるのだろう。                 </div>		
展開	とらえる	3 資料について知る。 ・条件、状況を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <b>【登場人物】</b> くまさん(主人公)                      森のどうぶつたち(うさぎ、りす等)   <b>【状況】</b>                      ・森の中で、かくれんぼをしている。                      ・「小川をこえないこと」がみんなの約束。                      ・体が大きいくまさんはいつもすぐ見つかってしまう。                      ・資料を聞く。                 </div>		<ul style="list-style-type: none"> <li>★きく木の提示。(手立て①)</li> <li>・登場人物、条件、状況をしっかり押さえる。</li> <li>・場面絵を示し、くまさんの体の大きさや小川を視覚的に捉えられるようにする。(手立て④)</li> <li>・太い木を掲示し、くまの気持ちに焦点化できるようにする。(手立て④)</li> </ul>
		4 主人公「くまさん」の気持ちを中心に話し合う。 (1)かくれんぼをしているくまさんはどんな気持ちでしたか。  (2)小川の向こう側にちょうどいい木を見つけたとき、くまさんはどんな気持ちでしたか。 ①役割演技をする。 「小川を越える」  「小川を越えない」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早くしないと見つかる。</li> <li>・もう時間がない。</li> <li>・今度こそは見つかりたくない。</li> <li>・大きい木を見つけた。</li> <li>・あの木の後ろなら、最後まで見つからない。</li> <li>・あの木の後ろに隠れたい</li> </ul>	
深める				<ul style="list-style-type: none"> <li>・木と小川の位置関係と「小川を越えないこと。」というきまりを視覚化する。</li> <li>・吹き出しの中に入るくまさんの気持ちを考え、「越える」「越えない」「分からない・迷う」3種類の気持ちを押さえる。(手立て⑤)</li> <li>★役割演技を見る中で、状況を押さえながらくまさんの気持ちを個々に考えられるようにす</li> </ul>

	<p>「まだ、迷っている」</p> <p>②ペアで伝える。</p> <p>③全体で共有する。</p> <p>(3)葛藤しつつも、小川をとび越えて、木の後ろに隠れているとき、くまさんはどんな気持ちでしたか。</p> <p>(4)「ごめんね、みんな…。」とあやまってくまさんはどんな気持ちですか。</p>	<p>から、小川を越えたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きまりがあるから、小川を越えない。</li> <li>・きまりがあるのは分かっているけど。でも、どうしよう。</li> </ul> <p>A小川のすぐそばだし、大丈夫。近くだから皆からも見えるし危なくない。やっと、かくれんぼで勝てる。</p> <p>Bきまりは守らないとずるになってしまう。みんなに怒られる。約束は守らないといけないもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・越えない。約束を守らないといけないから。みんなに怒られるから。</li> <li>・いけないことだと知っているけど、どうしても見つけたくない。</li> <li>・本当は渡りたい。一番になってみんなに「すごい」って言われたい。</li> <li>・どうしよう。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ここなら見つからない。</li> <li>・最後まで、見つからなくてうれしい。</li> <li>・「かくれんぼ上手だね、すごい。」ってみんなが言ってくれるかな。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心配かけてごめんなさい。</li> <li>・こんなことになるなんて思わなかった。</li> <li>・僕が約束を破ったから、</li> </ul>	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・くまさんの相反する2つの気持ちを示し、葛藤する気持ちに共感できるようにする。</li> </ul> <p>★ペアにし、自分の考えを発信する場を保障する。(手立て⑥)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どちらの立場の気持ちも大切にし、小川を越えたいくまさんの気持ちにも寄り添えるようにする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体で共有する中で、どちらのくまさんにも理由があり、揺れ動くくまさんの気持ちを実感できるようにする。</li> <li>・迷っていた人や気持ちが動いた人に問うことで、自分一人では気付かなかった意見の変容を共有できるようにする。</li> </ul> <p>◎葛藤するくまさんの気持ちに共感できたか。(発言・表情)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小川をとび越えて隠れたくまさんの気持ちを考え、そのときは嬉しかったくまさんの気持ちに共感しつつ、後から自分の選択を後悔する気持ちと比較できるようにする。</li> <li>・小川を越える選択をした時には、ここまで事態が大きくなると想像しなかつたくまさんの気持ちを振り返る。</li> </ul>
--	--	--	---

			<p>かくれんぼどころじゃなくなつた。大変なことになってしまった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・約束を破ったことで、楽しいかくれんぼではなくなったことを押さえる。</li> <li>・約束を破ったくまさんはいけないという価値観を押し付けないうよう留意する。</li> </ul>
見 つ め る	5	<p>自己の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なんのためにきまりやルールがあるのだと思えますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなが困ったりケガをしたりすることがないようにきまりがあると思いました。</li> <li>・みんなと一緒に楽しく遊ぶために、きまりやルールがあると思いました。</li> <li>・くまさんは、これからはみんなに心配かけないように、きまりを守って楽しいかくれんぼにしようと思いました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りのルールやきまりを想起し、学習プリントに振り返りを記述する。</li> <li>・きまりやルールを守ることがお互いに楽しい生活をするために大切であることを書いている児童の感想を紹介する。</li> <li>・手のつかない児童に対しては、事後のくまさんの気持ちを考えることで、自己の振り返りに代えて記述できるようにする。</li> </ul> <p>◎約束を守るとみんなが楽しく遊べることに気づいたか。</p> <p>(記述・発言・表情)</p>
終 末	ま と め る	6	教師の説話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間を守ろうと頑張る話や児童の姿を伝える。</li> </ul>

## 6 板書計画



参考資料：「道徳教育指導資料集 きょうもげんきに 小学校低学年用」（埼玉県教育委員会）

「道徳授業の道標 実践事例集 第6集」（熊谷市学力向上対策委員会）

「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」